

AichiAigo News

CONTENTS

特集 日中活動支援からの提言 ②③

報告・動いています委員会 ④

協会NEWS 全国知的障害者互助会連絡協議会開催 ⑤

「研究紀要」vol.14発刊 ⑤

支援スタッフ部会から ⑥

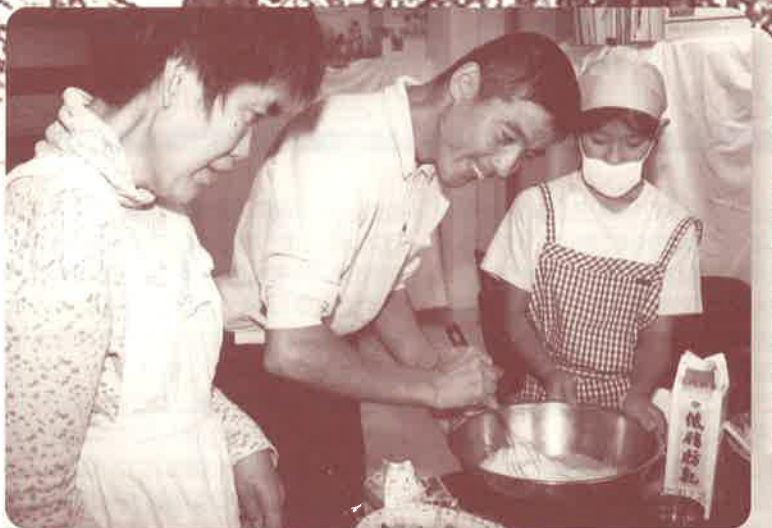
福祉協会ソフトボール大会 ⑥

ギャラリー ⑥

トライアル ⑦

四方山話 ⑧

information ⑧



vol. 79

Association on Intellectual Disability of Aichi
aiai-go@iwasaki-net.or.jp

特集

special edition

日中活動支援 からの提言



知的障害者授産施設
ぬくもりワークス

施設長 鈴木逸郎

愛知県知的障害者福祉協会
通所授産部会長

通所授産施設のあり方とは

当福祉協会会員190施設(平成15年5月現在)の内88施設が通所授産で、今後も増加がいちばん見込まれる種別です。数ある福祉施設のなかで唯一生産活動し、いわゆる稼いでくれる施設で、社会との接点を多様に持っているといえます。

利用者が家庭と施設の日中活動のなかで、労働の意義を会得してくれているだろうか。それなりに施設内で作業して過ごしているけれども、このまま30年も40年も続けているのがよいのかどうか等々、携わっている私たち職員は疑問に思うこともしばしばです。施設外就労の場を求めて地域雇用支援事業による現場実習への派遣にも挑戦している施設もあり、更なる努力がなされている反面、作業一辺倒と思われがちな授産施設も重度者を抱えているという現実があり、作業指導と療育指導の二本立支援を余儀なくされています。

支援費制度に移行して契約利用者への支援は「個別支援計画」に基づいて行うことが義務化され、10人10色の支援内容履行に施設も職員も苦慮していると思われがちですが、利用者の負担に応じて援助への努力が求められます。加えて地域福祉サービスの拠点として、契約利用者以外の居宅生活支援事業の設置を望ま

れることとなり、すでに県下(名古屋市を除く)の通所授産施設においても約20事業所が受け入れを開始しています。サービス供給体系を整理して職員の加重働を回避せねばなりません。叡智を出したいものです。

いまだ不況ムードの中での授産活動は先行き不安ばかりであります。懸命に努力されている施設も多々あります。下請作業から自主製品を主流に脱皮を試み、稼働の速い食品関係に活路を見出すところ、官公需の取り付けに奔走する施設等々仕事作りの大変さに直面されていると思います。しかし、世間は厳しいもので福祉施設関係の自主製品即売会などでは、プロの目から見て、まったくレベルが低いといわれていることから、さらなる改善への探求が必要かと思うところです。

現在、授産施設はその殆んどが県社協授産振興センターのセルフ部会にも属していることから、多様な情報が取り込めるものがある筈です。一施設ではどうしようもないことでも、共同受注、販売へのアンテナを高くして共存の道も拓けると思います。その兆候として名古屋市内の幾つかの施設では、クッキーづくりが共同販売ルートに乗ろうとしていることは心強く、その発展に期待するものです。

また、西三河の12施設では自主製品を中心に、月1回の共同開発プロジェクト販売を行い、12施設の保護者、職員等に商品の注文と受け渡し事業をスタートさせて3年目に入っています。決して高額な収入ではありませんが、確実な売り上げと参加施設の良い刺激となっています。自施設に適した商品の取り入れも視野に入れて担当職員の目は輝いています。

通所授産施設部会活動の一端を報告します。去る7月と9月の2回にわたり「個別支援計画の作成について」をテーマとして、120余名の施設長、職員の参加を得て研修会を開催いたしました。講師に全国社会就労センター役員の阿由葉寛氏(社会就労センター刊行「モデル支援計画の作成」編集責任者)を招き、充実した研修会とすることができました。全参加職員が5分散会で活発に意見交換し、コーディネーター(5施設)が総括し、疑心暗鬼だった支援計画作成の手順や捉え方を確認し有意義でした。参加職員には今後とも自施設での支援計画づくりのリーダー的存在となってほしいと願っています。そして、施設利用者が、力いっぱい生きて、働いて、豊かで潤いのある人生が送れるよう私たち職員は支援を惜しんではならないと考えます。



知的障害者授産施設 大森授産所

主任支援員 朝倉幹雄

作業開拓支援員 塚本記祥

生活支援員 井畑浩二

こ れからの授産施設、授産活動とは、支援とは

大森授産所は平成5年開所以来、授産とは何か?と常に模索してきました。平成15年度より利用契約制度にかわる中で重要事項説明書において授産施設を運営するための方針を次のように書いています。

「授産施設は社会との調和をめざし、作業を通して唯一生産活動経済を行う施設である。就労支援、自立のためのサポートをする中で目標を持って利用する施設である。授産施設は通過施設であり、社会資源としての施設を利用し、おののニーズを実現することが利用者、施設に課せられている。授産施設の第一番目の役割は就労支援である。第二番目が授産を活性化の中で利用者が自分の役割に目覚め社会性を磨く場所である。」と位置づけています。

現状の授産施設は、作業を中心に行っている施設もあれば、生活面を中心に行う施設もあります。しかし、利用者が年々重度化していき本来の施設目的や役割が果たせなくなっている上、一度入所すれば利用者の移動や入れ替えが殆んどないことが問題となっています。ここで求められるのが、施設の独自性ではないでしょうか。すでに施設によっては、工賃支給率の高い施設や重度者を多く受け

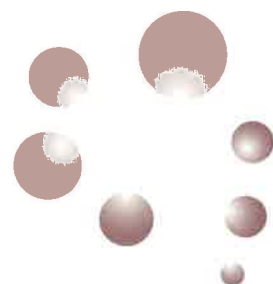
入れている施設など少しずつ独自性を発揮している施設もあります。そこで目的や機能など利用者が選択しやすくなるよう意識改革と環境の整備が求められます。たとえば授産施設として高い工賃の支給を目的とするならば、下請け作業から今後は企業や専門家といかに連携していくのか。施設外実習や企業の一部(子会社化)を行うなど入り込める余地はあるように思います。また、後継者のいない町工場など人手不足に悩むところもあり、地域ごとの特色を生かした産業は必ずあります。その中で取り組める作業を見つけ出したり、作り出したりタイアップしていくことが大切であると思います。

一方、授産施設における支援とは、日常的に作業(働くこと)を通して、利用者が主体的に生きる力を育めるよう支援が展開されなければならないと思います。作業をしたいニーズがあれば、利用者の障害程度に関わらず、「創意・工夫・改善」することで、そのニーズに応えられるように努めなければなりません。しかし、人が生きていく上で必要なことは「働くこと」だけではありません。授産施設は生産、就労を目的とするところであっても、人が生きていくために本来提供されなければいけない支援を忘れてはならないと考え

ます。作業をする力がつけば、それでよいのではなく、私たちの求めるところは、働くことを通して、その人が主体的に生きていく力を育む支援がより大切なところであると考えます。

それには、まず第1にご本人さんの健康を維持するために食生活の管理、医療機関との連携があげられます。そして、休日を充実するための余暇支援が必要となります。家族を中心とした暮らしの中で、それぞれが自立し、働き、休日を過ごし、仲間、多くの人たちのかかわりなど、暮らしの中でさまざまな出来事を通して豊かな人生を築くことができると考えます。

これからの授産施設は、授産活動のみならず、利用者の生活全般を含めた支援ができるよう、それぞれの施設が独自性を展開しながら進むべきであると考えます。



報告 動いています委員会

福祉協会を支える活動として、「委員会」があります。
今年度も、可能な限り利用者支援の向上を求めて東西奔走！
活動する委員会の報告をします。

倫理委員会

今年度の主任職員研修会は、知的障害者や自閉症者の事件で、渾身の弁護をしておられる、副島洋明弁護士（知的発達障害刑事弁護センター代表）を講師に、東京浅草の路上で起こったレッサーパンダ帽をかぶった青年の殺人事件などを通して、障害のある人が事件を起こすにいたる経過や、本人の生い立ちや環境について話を聞きました。中でも本人がうまくしゃべれず、弁解もできない中で正当な裁判が受けられない実情や誤った情報がマスコミに報道されてしまうなど、社会において障害者の置かれている厳しい現状を知ることができました。

「施設から地域へ」という流れの中で、地域で知的障害者が生きていくために、どのような環境を整えどのような支援体制が必要なのか、また、弁護士など他の専門家とどう連携したらよいのかなど、今後直面するであろう課題について示唆を受けた研修会であったと思います。

在宅サービス推進委員会

今年度の活動は、支援費制度のもとで居宅生活支援に関して県内の事業所がどのように取り組んでいるのか情報を集め、関連のある地域支援部門からご意見を頂きながら、在宅サービスの啓蒙方法について模索してきました。

12月の県職員研究大会では「在宅サービス」を分科会として独立させ、研究課題を明らかにし、意義あるものにしようと努力しています。

また、16年1月には施設長研修会を開催し、在宅サービスの現状と課題について多くの施設長に知って頂くべく準備を進めていますので、是非ご参加ください。

対外対策委員会

今年度の対外対策委員会の活動は、主管課である愛知県健康福祉部障害福祉課との定期的な情報交換と県内の知的障害者具駆使関係団体が加盟している知的障害者福祉連盟の交流を予定しております。また、今年度から始まった支援費制度には施設と利用者の契約行為が必要不可欠となりました。そこで、利用者の人権擁護の観点から成年後見の実態調査と勉強会を行い、契約・金銭管理などの面で安心して生活が送れるようなし支援方法を考えています。保護者のいる方は、保護者が後見手続きをとるケースが多いようですが、身寄りのない方が問題となります。弁護士に頼めばいいのですが、費用面で負担が大きく内容も金銭管理が中心です。身近にいる我々施設関係者が、金銭管理だけでなく、生活全般の相談や各種契約等にお手伝いすることが利用者にとって一番よい方法を提案できるのではないかと考え、法人後見に向けて検討していきたいと思っています。みなさんも成年後見に関しての情報・ご意見をお持ちでしたら是非、教えてください。

研修委員会

研修委員会は、年度始めに委員会を開催し、前年度事業並びに会計の報告及び今年度の計画と予算の話し合いを持ちました。

委員会として、広く職員に研修の場を提供していくため、その立案を進めましたが、各種事業の研修スケジュール等との兼ね合いから実施に至っていません。

現在、12月に行われる「愛知県知的障害関係施設職員研究大会」に向け、県下の施設等に参加の呼びかけをしているところです。

本大会は、支援費制度が始まって初の大会であるため、その状況や疑問点等が各事業所から数多く報告されると思います。そのことについて、利用者、職員、保護者、関係者が一緒になり、真に「一人ひとりの幸せ」追求の論議ができればと思っています。

文化活動委員会

今年度も「愛知県知的障害関係施設職員研究大会」において、『パネルセッションぼくらの展示会』を並行開催することになりました。情報化時代に適応したネットワークづくり、地域に根ざした福祉環境を提供することと同時に、会場近郊の三河セルブを中心とした即売会も実施することで、今までパネル展示だけでは、理解得にくい知的障害者施設の日中活動支援の状況を障害関係以外の一般の方々にもより深く理解を求めることができるのでは思います。

そのために、今年度は会場近郊の地域の人たちにも、“授産施設の即売あり”と後方にも力を入れますので、ご期待ください。

療育研究委員会

現在、療育研究委員会では、平成16年度に研究紀要発行に向け準備を始めています。今回も監修を愛知県福祉協会嘱託研究員で名古屋女子大学家政学部教授の三谷嘉明先生にお願いしまして前回のようの中身の濃い紀要作りを目指していきたいと思っています。未だしっかり内容を煮詰めていませんが、激しく変わりつつある社会の中にあって本当に今何が必要で、どうあるべきかを問い、福祉協会の施設の皆さんはじめ関係各位のご協力をいただきながら進めていきますのでどうぞよろしくお祈りします。

第29回 愛知県知的障害者福祉協会ソフトボール大会

優勝おめでとう

- 1次リーグ **ぬくもりワークス**
- 2次リーグ **たかぎ作業所**
- 3次リーグ **さつき授産所**
- 更生施設リーグ **ひかり学園**

一球入魂!!

愛知県知的障害者福祉協会主催によるソフトボール大会が、平成15年10月1日～3日と7日に名古屋市守山区 小幡緑地公園で開催されました。今年度は授産施設より23施設・更生施設より9施設が参加し、熱戦を繰り広げました。ヒットあり、ホームランあり、エラーあり、三振あり、選手と観客が一体となり、深まりゆく秋の一日、日ごろの生活も忘れ、思いっきり楽しみました。

●第一次リーグ試合トーナメント

- ・優勝/ぬくもりワークス
- ・準優勝/春日台授産所
- ・第三位/一進舎
- ・敢闘賞/桜木授産所

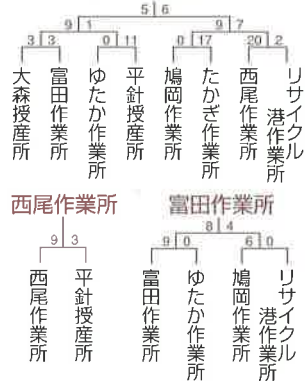
ぬくもりワークス



●第二次リーグ試合トーナメント

- ・優勝/たかぎ作業所
- ・準優勝/大森授産所
- ・第三位/西尾作業所
- ・敢闘賞/富田作業所

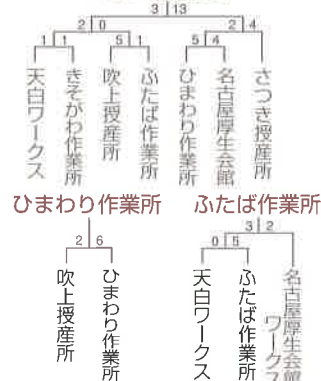
たかぎ作業所



●第三次リーグ試合トーナメント

- ・優勝/さつき授産所
- ・準優勝/きそがわ作業所
- ・第三位/ひまわり作業所
- ・敢闘賞/ふたば作業所

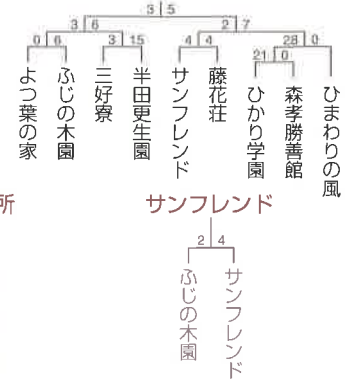
さつき授産所



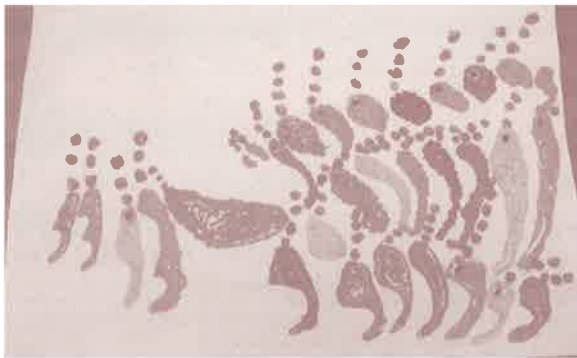
●更生施設リーグ試合トーナメント

- ・優勝/ひかり学園
- ・準優勝/半田更生園
- ・第三位/サンフレンド
- ・敢闘賞/ふじの木園

ひかり学園



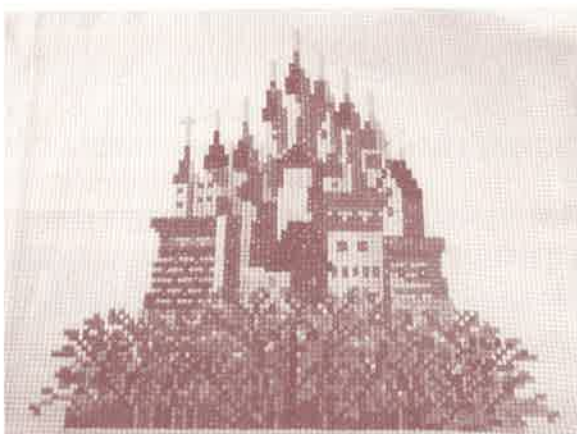
ギャラリー



「ももちゃん」武藤明美(メイトワークス)



「ピチューウ」川島 晶(メイトワークス)



「城」児玉喜代美(いすみ作業所)



「トマトとそら豆、かぼちゃもあるよ」大重琢哉(うえの作業所)

トライ アル

だれもがただ一度きりの人生！
だれもがチャレンジャー
いつまでもチャレンジャー
明るく、生き生きと暮らす
仲間を紹介します！

新たな体験にチャレンジ



いずみ作業所(通所授産施設)

一宮市 TEL(0568-51-3005)



今年の夏のある日。余暇活動の新たな試みで利用者の希望が多かったボウリングを体験しました。華麗にボールを投げフォームもかっこよく決まる方。初めての体験で不安げな表情でボールに触れながら支援員と一緒に頑張った方。十人十色でした。

終了後には、「楽しかった」「また行きたいな」と大変好評でした。これからも利用者の笑顔があふれる行事に取り組んで生きたいと思えます。 **LETS! TRY!**

テーブルマナーで大人の気分!

ときわ作業所(通所授産施設)

江南市 TEL(0587-57-7101)



ときわ作業所では、6年前から利用者の方々に素敵な思い出づくりと、少し大人の雰囲気味わってもらおうとテーブルマナーを成人の集いとあわせて始めています。

ホテルの披露宴会場を借り、スーツなどあらたまった服装で、本格的なフランス料理をインストラクターの指導に基づき、普段あまり食べることのできないおいしい料理をフォークやナイフを使い、舌鼓を打ちながら、緊張し、かつ楽しいひとときを過ごします。回を重ねるごとに落ち着きも増し、ナイフやフォークの使い方もさまになってきました。



心のバリアフリー

先日、数名の利用者と施設の近くにある本屋へ出かけました。その本屋には障害者専用のスペースが設けてありましたが、そこには一般の人の車が駐車していました。私たちが待っていると、ちょうど持ち主が着ましたので、出るのを待っていました。その車は何度も何度も切り返しをして駐車スペースから車を出し、私たちの車の横を通るとき、窓をあけ一言「何？この人たち！邪魔だわね！」と私を睨みつけ去っていきました。「施設から地域へ」といわれる時代。健常者の方々もほんの少し、障害のある方たちの立場にたってもらえるような広い心があればな…と思いました。
(養和荘 生活支援員 沖 英典)

おおきに

先日、京都に行ってきました。京都の風情に感激しただけではなく、地元の方の暖かさを感じる事ができた旅でした。「トロッコ電車に乗ってみたいなあ」と話をすればこちらからお願いする前に電車の時刻、駅までの道のりを教えてくださったり…と何気ない一言。何気ない親切に胸いっぱいになりました。そして、会話の節々に聞かれる「おおきに」という言葉。私はあんなにも自然に「ありがとう」といえるだろうかと考えさせられました。感謝する気持ちをいつも持って、自然に「ありがとう」の一言が言えるようでありたいと思いました。
(ひがしうらの家 支援員 鈴木友紀子)

因果応報

金魚が泳いでいる水槽に、激しく怒った人がストローで息を吹き込むと、怒りにあてられて金魚は死んでしまうそうです。マイナスの感情は毒素を出し、プラスの感情は免疫力を賦活するといった効果があるとのこと。怒ったり、悲しんだりしていると周囲を暗くするばかりでなく自分の体も蝕むことになり、逆に笑っていると周囲を明るくし、健康でいられる「笑う門には福来る」とはよく言ったものですね。
(いずみ福祉園 支援員 竹内亮二)

私の好きなこと

心地よいカフェで気の置けない友人と大好きな母と、時には異性と語りながらお茶をすること。学生のころはわからなかったコーヒーや紅茶の味が、今はとても幸せにする。人は年齢を重ねるうちに、自分の好きなこと、したいことがわかり始めるのだろうか。心地よいことは人それぞれ。したいことも人それぞれ。顔も性格も…。毎日出会う人はいろんなことを思わせてくれる。私はお茶することが好きだけれど、自分の目の前に座るいろんな人が好きだと知った。
(あいあいホーム 生活支援員 山本悦子)

information

お知らせ

平成15年度愛知県知的障害福祉者福祉協会「功労賞」受賞者が決まりました

- ◆ 島崎 春樹 氏
(昭和9年2月4日生)
社会福祉法人 あさみどりの会 理事長
べにしだの家 施設長
【愛知県知的障害者福祉協会における功績】
昭和52年度～昭和59年度 療育研究委員会委員長
昭和60年度～平成4年度 愛知県知的障害者福祉協会会長
平成6年度～平成10年度 愛知県知的障害者福祉協会参与
平成11年度～ 愛知県知的障害者福祉協会顧問
倫理委員会委員長
- ◆ 加藤 貴一 氏
(昭和12年10月18日生)
社会福祉法人 若草学園 施設長
【愛知県知的障害者福祉協会における功績】
昭和61年度～平成4年度 愛知県知的障害者福祉協会監事
平成5年度～平成13年度 愛知県知的障害者福祉協会副会長
平成14年度～ 愛知県知的障害者福祉協会監事

第4回 愛知県知的障害関係施設職員研究大会

- 期 日 平成15年12月4日(木)～5日(金)
- 会 場 ホテル日航豊橋
豊橋市藤沢町141 ☎(0532)48-3131
- 参加者 福祉協会加盟施設の施設長を含む全職員
県及び市町村の障害福祉担当者、教育、労働などの関係者
- 内 容 大会テーマ
「一人ひとりの幸せを願いその人らしい暮らしを支える施設サービスをめざして」
～利用者の利益の保護と地域福祉の推進～
・基調講演「利用契約時代を迎えて」
～施設現場はどう実践していくか～
・シンポジウム1「本人参加シンポジウム」
・シンポジウム2「今、施設は何をなすべきか」
・分科会「発達支援と地域療育」
「施設生活支援」
「日中生活支援」
「地域生活支援」
「在宅サービス」
「施設と保護者の連携」

愛知県知的障害者福祉協会事務局 (岩西授産所内)

〒440-0845 愛知県豊橋市高師町字北原1番地107
TEL・FAX (0532) 62-0161
E-mail : aiai-go@iwasaki-net.or.jp